

RS ウイルス感染症ワクチン定期予防接種にあたって

☆接種される前に必ずお読みください☆

☆RS ウイルス感染とは？

RSウイルスは特に小児や高齢者に呼吸器症状を引き起こすウイルスで、1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が、少なくとも1度は感染するとされています。感染すると、2～8日の潜伏期間ののち、発熱、鼻汁、咳などの症状が数日続き、一部では気管支炎や肺炎などの下気道症状が出現します。初めて感染した乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、喘鳴（ゼーゼーと呼吸しにくくなること）や呼吸困難、さらに細気管支炎の症状が出るなど重症化することがあります。2010年代には、生後24か月未満の乳幼児における年間のRSウイルス感染症発生数は12万人～18万人であり、3万人～5万人が入院を要したとされています。また、入院例の7%が何らかの人工換気が必要としたとする報告もあります。

RSウイルスの流行には季節性があり、新型コロナウイルスの流行以前は秋冬に流行が見られましたが、近年は夏に流行がみられています。接触・飛沫感染により伝播するため、手洗いや手指衛生といった基本的な感染対策が有効です。治療は症状に応じた治療（対症療法）が中心で、重症化した場合には酸素投与、点滴、呼吸管理などを行います。

☆母子免疫ワクチンとは？

生まれたばかりの乳児は免疫の機能が未熟であり、自力で十分な量の抗体をつくることができないとされています。母子免疫ワクチンとは、妊婦が接種すると、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時から病原体に対する予防効果を得ることができるワクチンです。

RS ウイルス感染症に対する母子免疫ワクチンとして組換え RS ウイルスワクチン（ファイザー社のアプリスボ®）があります。なお、組換え RS ウイルスワクチンのうち、アレックスビー®（GSK 社）は母子免疫ワクチンとして用いることはできません。

☆ワクチンの効果

	生後90日時点	生後180日時点
RSウイルス感染による 医療受診を必要とした下気道感染症の予防	6割程度の予防効果	5割程度の予防効果
RSウイルス感染による医療受診を必要とした重症下気道感染症(※)の予防	8割程度の予防効果	7割程度の予防効果

※ 医療機関への受診を要するRSウイルス関連気道感染症を有するRSウイルス検査陽性の乳児で、多呼吸・SpO₂ 93%未満・高流量鼻カニューラまたは人工呼吸器の装着・4時間を超えるICUへの収容・無反応・意識不明のいずれかに該当と定義しています。

☆ワクチンの安全性

ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、ショック・アナフィラキシーがみられることがあります。

また、ワクチン接種による妊娠高血圧症候群の発症リスクに関して、薬事承認において用いられた臨床試験では、妊娠高血圧の発症リスクは増加しませんでした。海外における一部の報告では、妊娠高血圧症候群の発症リスクが増加したという報告もあるものの、交絡因子等の影響の可能性があることから解釈に注意が必要であるとされています。

裏面もお読みください

発現割合	主な副反応
10%以上	疼痛*(40.6%)、頭痛(31.0%)、筋肉痛(26.5%)
10%未満	紅斑*、腫脹*
頻度不明	発疹、蕁麻疹

*ワクチンを接種した部位の症状 添付文書より厚労省にて作成

☆接種対象となる方・接種スケジュール

接種対象者	接種時点で、妊娠 28 週 0 日から 36 週 6 日までの妊婦の方 ※過去の妊娠時に組換え RS ウイルスワクチン（母子免疫ワクチン）を接種したことのある方も対象
接種回数・接種方法	妊娠ごとに 1 回・筋肉内に接種
接種スケジュール	妊娠 28 週 0 日から 36 週 6 日までの間に 1 回接種 ※接種後 14 日以内に出生した乳児における有効性は確立していないことから、妊娠 38 週 6 日までに出産を予定している場合は医師に相談してください

☆予防接種を受けることができない場合

- 接種当日に明らかな発熱（通常 37.5℃以上をいいます）をしている場合
- 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- 組換えワクチン（アブリスボ®）の成分によりアナフィラキシー（通常接種後 30 分以内位に出現する呼吸困難や全身性反応）を起こしたことが明らかな場合
- その他、医師が不適當な状態と判断した場合

☆予防接種を受ける際に、担当医師とよく相談しなければならない方

- 妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いと医師に判断された方や、今までに妊娠高血圧症候群と診断された方
- 筋肉内注射のため、血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方
- 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する方
- 予防接種を受けて 2 日以内に、発熱や全身の発疹などのアレルギー症状があった方
- けいれんを起こしたことがある方
- 免疫不全と診断されている方や近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- 組換え RS ウイルスワクチン（アブリスボ）の成分に対してアレルギーを起こすおそれのある方

☆接種後の注意点

- 接種後 30 分間は急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう
- 接種後、体調に異常を感じた場合には、速やかに医師に連絡してください
- 当日の入浴は問題ありませんが、接種部位はこすらずに清潔を保ちましょう
- 当日の激しい運動は避けましょう

☆定期予防接種による健康被害救済制度

定期予防接種によって引き起こされた副反応により、本人及び児が医療機関での治療が必要としたり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因（予防接種の前後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等）によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に給付を受けることができます。定期予防接種後の副反応などが生じた場合には、下記までご連絡ください。

問い合わせ先：関川村 健康福祉課 健康推進班 電話 (0254) 64-1472 (直通)
--